HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	巻頭言
Author(s)	室橋, 春光
Citation	子ども発達臨床研究, 6
Issue Date	2014-12-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/57560
Type	other
File Information	AA12203623_06_0.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

巻頭言

本センターは、教育学研究院の附属教育研究施設として、より広い視野で教育科学の展開を目指し、乳幼児期だけでなく児童•青年期も含めた社会との関わりにおける具体的な教育的事象としての「発達」と、その臨床的実態を解明しようとしている。

本年度は、従来から設置されていた「子ども臨床研究部門」「子ども発達研究部門」「子ども支援研究部門」の 3 部門のうち、「子ども発達研究部門」と「子ども支援研究部門」を発展的に統合して「子ども発達支援研究部門」とし、有機的なつながりのもとに活動をさらに高めることを目指そうとしている。

教育学研究院では、子どもや大人一人ひとりが個性を活かし、遊び・学び・働くことのできる社会の実現を目指し、そのキーパーソンを養成するための「対人援助専門職の高度教育総合職化プログラム」を予算化すべく検討してきた。その試みは実現していないが、本センターでも教育領域における専門職の高度化を視野に入れて、新たに「教職高度化研究部門」を開設した。今後、本センターの目的を実現するため、これら 3 部門が連携しつつ活動を深めていきたいと考える。

今回、そのような経緯を踏まえて、本センターの紀要である「子ども発達臨床研究」に 2 つの特集を組むべく、特別号を編むこととした。特集のひとつは、本年 3 月に行われたシンポジウムの報告「Development 概念の転換―支援の困難性の背後にあるものを探究する」である。宮﨑教授の企画趣旨にあるように、私たちは「発達支援学」プロジェクトと名づけた取り組みを行ってきている。そこでは「遊ぶ・学ぶ•働く」、「『生きづらさ』を超えて」と題したシンポジウムを組みつつ、様々な領域において発達支援に関わる専門職を招き、「困りごとワークショップ」を開催してきた。そのような中で、私たちは「発達」概念を再検討すべき岐路に立っていることを確認したのである。教育学研究院の知力を結集して「発達とは何か」という問いに向き合う中で、本センターも役割を果たしていきたいと考えている。

もうひとつの特集は、本年 7 月に行われたシンポジウムの報告「読み書きに悩んでいる子どもたち：読み書き困難における問題の所在と支援」である。特集の一つ目は「発達」概念を多様な視点から検証しようとするものであるといえるが、それを受けて二つ目の特集では「読み書き困難」という具体的な事象の中に見えてくる「発達」の問題とその「支援」における課題を取り上げる。そこから、改めて「発達とは何か」という問いに迫ることができればと考える。

ふたつの特集は、これからの研究と実践のきっかけを創ろうとする試みであり、まだそれぞれのテーマに十分に取り組んだと言えるものではないが、今後の展開に期待していきたい。

（センター長　室橋春光）